

会 議 録

会議の名称	令和4年度第2回天草市総合政策審議会
開催日時	令和4年5月27日(金) 10:00~16:50
開催場所	天草市役所2階 庁議室
議長名	玉村 雅敏
出席者氏名	玉村会長、田中副会長、荒木委員、江良委員、小川委員、小田委員、木村委員、黒沢委員、澤田委員、西村委員、森本委員、山下委員
欠席者氏名	
会議次第	1 開 会 2 会長あいさつ 3 報 告 (1) 令和4年度第1回天草市総合政策審議会会議録について 4 議 題 (1) 第3次天草市総合計画の策定 について ・基本構想(素案)について ・基本計画(素案)について 5 その他 6 閉 会
審 議 内 容	
<p>議題(1) 第3次天草市総合計画基本構想について</p> <p>・基本構想(素案)について</p> <p>○【資料1】事務局説明</p> <p>(副会長) やはり、市民の皆さんと行政と一緒にやっていくという姿を表に出された方がいいと思います。また、基本構想は細かいとこまで書いてしまう締めまりが出てきてしまうので、今くらいがちょうどいいと思いました。</p> <p>(会長) 基本構想の素案での将来像の理念についてまでは確認をとりたいと思います。事務局の説明を聞いた中で意見はありますか。</p> <p>(委員) 素敵な表現に変更されていて、また、行政の部分もしっくりくるようにまとめてあると思います。一点、「つながり稼げるまち」のところで、「稼げる」という表現について、どのような定義で稼げるということなのかをもう一度確認したいと思います。現在、稼ぐということもなかなか難しくなっていく中で、いかに継続して事業を続けていくことも今後は重要ではないかという意見がありました。そこを踏まえたところで、なぜ「つながり稼げる」という表現を残したのかを確認できればと思います。</p> <p>(事務局) 以前、「稼げる」という言葉について、いろいろとご意見をいただきました。今回、産業経済部門では、3つのありたい姿を掲げており、一次産業で産地力という部分で維持、向上していく必要があるということで、生産者がつながり団結し産地を守っていく、そこで所得を上げていくという意味合いが根底にあります。また、商工業においても高齢化が進んでおりますので、事業承継、また経営者同士がつながるといった部分で継続し、維持して稼いでいくという「つ</p>	

ながりで稼ぐ」という意味合い、また、地産地消、地産他消では、一次産業と商工業がつながる、飲食店あるいは観光の関係の業者さんにつなぐ、そのようなつながりといった意味合いを持った「稼げる」という言葉を根底に置いています。

(委員) 今の説明の意味合いから「稼げる」という表現であればしっくりきたと思いました。

(委員) ありがたい姿の8番の部分で、域内経済の範囲がこの地域だけものを強調しているのか、外に向けて発信していくことなどはないのか思ったところです。

(会長) 資料2については後ほど時間をとりまとめていきたいと思いますが、理念に影響するところだと考える点もあるかと思いますが、事務局から少し補足してください。

(事務局) 域内経済だけではなく、外にどんどん押していくことも重要ではないかというご意見だと思います。現在、地産地消に取り組んでおりますが、やはりどんどん外に流れてしまっています。例えば通販の利用や熊本市内などに買いに行くということがあります。このため、まずは地産地消として天草域内で買い物をする。また、天草の物を選んで買うことで天草の良さに気付いていただき、経済をまわす。そのようにして商品力をアップさせていき、それを今度は外に持っていくと考えております。まずは、いきなり経済をまわしていくのではなく、その次があるということを含め、今回はこのように記載しました。

(委員) 今の説明で意図がはっきりとわかりました。このような説明がある上で書かれてあれば分かりやすいと思いました。

(委員) とてもわかりやすく浸透するような理念になっていると思いました。

私もご指摘があった「稼げるまち」というところが非常に重要な点だと思います。きちんと稼げれば心に余裕が生まれ、学ぶこともでき、そして、優しくもなれて、自然と共生するまちにつながっていくような、流れていくという意味でとても重要な真ん中に位置するピンになると思っています。あと、つながるというところは、非常にわかりますが、メリハリをつけていくのであれば、マーケットへの考え方を学ぶというところで非常に重要な指摘になるのではないかと思います。いろいろな事業者と話をしますが、今必要なのは様々な状況が変わる中で、マーケットは何を望んでいるか、何に付加価値があってそれに対応するために自分たちもいかに付加価値をつけ、生産性の向上につなげていくかだと思います。マーケットの考えを学ぶことによって今までにない強調するポイントを、市場を見て、消費者を見て、そしてバイヤーと話をしているということが、非常に重要ではないかと思いました。

(委員) 先ほども委員からご意見がありましたが、「つながり稼げるまち」という部分で、メリハリをつけるのであれば、「誰もが安心して働ける場所があるまち」を目指すというのは大前提で当たり前のことであって、稼げるまち、稼げる仕事があるまちという部分をもう少し打ち出してもいいと思いました。実際、稼げる仕事があるところに人は集まってくると思いますが、私はいろいろな企業を見る機会があり、絶対的に所得が低いと思います。私自身、天草にきて年収が2分の1、主人に関しては3分の1になりました。税金や社会保険料は前年の所得で額が決定

するので約2年間は税金に追われたという、天草での給料で払っていくのがとても大変だったという実体験があります。天草の事業所の所得を上げていかないと人は入ってこないのではないかと考えています。安心して働けるのは当たり前で、稼げる仕事があるということを将来像として目指したらどうかと思いました。

(会長) そういったことがあるからこそ、稼げるということもあります。このことは、ありがたい姿の項目をどこの部分で見えていくのかにも影響してくると思います。

○【資料2】事務局説明

(会長) 資料2のありがたい姿は、理念や目指すことを踏まえ、それを実現していくことに着目していけるような形だと思います。理念からこのありがたい姿がこうなってくるという見方をしていただき、特色を出していくことで未来にしっかりつながるということにもなりますので、いろいろなご意見いただければと思います。

(委員) 「自然と共生するまち」というのは、天草は自然に囲まれているので当然であって、ありがたい姿としては、そこから先の天草の自然を積極的に守っていくという姿や新しい技術などを整えていくということ、天草は先頭を切ることができる場所だとすると説得力もあると思います。もう少し踏み込んでいただきたいと思います。学びに関しては、天草という場所だからこそという部分をもう少し出してもいいと思います。そこが「稼げるまち」というところとバランスもよくなり、つながり続けるまちとなり、だから、自然と共存、共生するまちとなるのではないのでしょうか。「稼げる」だけが飛び抜けてしまうのは怖いと思うので、自然を守ること、さらにそこから先端の技術を集めるようなことがあった方が、天草のありがたい姿になるのではないかと思います。

(事務局) 自然と共生についてですが、環境の視点から、市では今年度イルカの生態系の調査を始めています。イルカが生き続けられる環境を守っていくという考えから行っていますが、ご意見をいただきましたように、この取り組みによって現地で学べる場所を設けられていく形ができ、修学旅行や多くの方が天草に海の環境においてイルカを通じて学びに来るといった形ができ、ここから稼げるに少しでもつなげる部分ができれば、それによって新たな産業がまた起きていくということも考えています。あと、現在森林に手を入れられていない状況なので、新たな展開をしようといった取り組みも始まっています。いわゆるゼロカーボン関連ですが、都会の企業が自社のガスを吸収できないため、田舎の山を提示することによってそこで吸収するという森林信託という取り組みです。そういったことも考えておりますので、いずれにしても自然との共生を稼げるまちにもつなげていく、他のことも含め、全てのものが自然と共生するといった観点でうまく絡みあっていけるようにできればと考えております。

(会長) 自然環境を守ろうという意識がしっかりあり、それを持続的にしていくことが大切で、皆さんがそこをしっかりと守ると思うからこそ、天草らしくできることになるかもしれません。そして、ここから稼げるにつながるということもあるので、単に保全する、循環するだけでは守る要素が強くなっていくのかもしれない。この次の議論にはなるのですが、観光・文化部門や、生活環境・防犯防災部門などの様々な強みのある部門がいろいろなことに挑戦していくことが大切だと思

います。生活環境の話、環境を作るといふ言い方からどうしても先入観があるかもしれませんが、2030年くらいには自然環境をしっかりと意識するからこそ、最先端のテクノロジーを取り入れていくなど、いろいろな意味で未来をどうするべきという話ですので、その感覚も持って考えることができたと思います。

(委員) 私も先ほどの意見に同感です。67%が森林の天草の中で、森林は宝だと思っています。山の活用をどのように具現化するかということがポイントではないでしょうか。水産業や農業は一般の消費者、生活者に直結していて身近ですが、意外に山や森林は、生活の中にそんなに出てこない部分になると思います。だからこそ、宝として具体的な動きに変えると、自然と共生する中でも強調されていいのかなと思います。あと、守るだけではなく、どんどん変えていくということもあるからこそ、希望を持てるのではないかと感じています。「自然と共生するまち」は、すでにもう共生しているので、次どうするかということ、山林、林業、この部分をもう少し具体化するとバランスとしてもいいのではないかと思います。

(会長) 自然と共生するという事は常に重要なことで、いつもあるものだと思うかもしれませんが、最先端のテーマとして取り組むことで特色を出し、そういったことで稼げることにもなります。時間が経つと当たり前過ぎて意識しにくくなったかもしれませんが、教育部門も、産業振興も観光も文化も、ありとあらゆるものに自然は関わっていて、範囲を狭めすぎなくてもいいのかもしれない。このことは全てのことに関係するかもしれないといった見方をさせていただくなど、ご検討いただくといいと思います。

(委員) ありがたい姿の1番と2番ですが、天草には10地域あり、みなさんの住民意識が高く頑張っておられるので、2つを一緒にしてうまく表現できないかと思います。また、自然に関しては、今までの意見もありましたが、天草の持っている自然、自然力を全国にアピールし、共生の次に来るものも考えて、アクションを起こす時ではないかと思っています。そして、時代の最先端にあるひとつのまちが天草市になっていくと思います。このことは非常に共感を得られると思います。2030年はもうすぐなので、あまり欲張らない方がいいのではないかとと思います。

(会長) ありがたい姿は20に収めないといけないということではありません。数が多くなっても構わないと思います。市民活動、地域づくりなどいろいろなことをやっている人と人材育成など一緒にやっていくことが必要かもしれません。確かにありがたい姿としても、連携しあえるような項目があればそれも含めて検討していただければと思います。

(事務局) 自然との共生はもうできていて、次のステップに入っているのではないかと意見もいただきました。先頭を切っていく、一步踏み込んだことなどの意見もありましたので検討したいと思います。

(会長) ありがたい姿においては全体を俯瞰してみることが重要なので、その理念とのつながり、政策も含め必要に応じて検討いただければと思います。

「挑み続ける行政経営」は、天草市の強い特色だと思っています。そのありがたい姿が社会に対応していく、経営意識が高い財政となっています。しかし、組織はそもそも人の力であり、ありがたい姿として職員の能力を高めていくことも必要で

す。そういった人材や人の力がすごく重要だと思います。それがありがたい姿としてきちんと言われているのではないかと思います。やはり挑戦できる職員がいるということはかなり影響が大きいと思います。職員にどんどん投資すべきだと思いますので、行政改革の一環としてそういった要素があってもいいのではないのでしょうか。

(事務局) 職員の人材育成については 18 番の中に含めていたところですが、確かに職員一人一人の能力を上げていかないと、社会に対応できないとも思います。ただその点を書き出すとあまりにも細かくなりすぎないかとの懸念もあります。全体的なバランスを含め検討したいと思います。

(委員) 19 番の「高い経営意識を持った財政経営ができていく」という感じもあり、また、ほかの部署との関係も含めた課題が出てくるのではないかと思います。例えば、高い経営意識を持ったところで共有するという意識と言いますか、部を超えて対応し高い意識を市民とも共有していくという表現で書かれると、皆さんが共同して関わって協力して、縦割ではなく、ひとつのことを市民みんなでチームとして取り組む姿としてもいいのかなと思います。

(会長) 今の指摘は、行政として市民にも担ってもらおうということだけではなく、その後こう作っていくということが重要なことだと思います。オーソドックスに行政職員がやりますではなく、市民の皆さんと協働してやっていく。協働していくためにはみんなが楽しいと思い、挑戦できることを促されていることが行政側からもしっかりとできていて、職員としてもそれができている状況になっていることも考えていただければと思います。

(委員) 「働ける場所がある」というところですが、実際に、仕事があつて天草に来る方や今までやっている方への支援も重要ですが、仕事がなくとも自分で作り出すことも大切です。創業したいという人への支援に関してすごく重要ではないかなと思います。企業誘致や若者が働ける場を創出するというところもあると思いますが、受け身のような気がして、自分でやろうという方に対する支援をもう少し強調してもいいのではないかと考えています。誰かに雇用されるというよりも自ら仕事を作り出すということなので、色々足りないところはその支援を増やすとすると、その人たちの勇気が出るのではないかと思います。

(会長) 創業できる、挑戦できることは重要なテーマだと思います。確かに少し見えにくいかもしれませんが、おそらく後ほど説明がある基本計画の部分での説明になると思いますが、ありがたい姿としてもできるということもあるのではないかとご指摘と思います。

(事務局) 後ほどの内容となる政策・施策計画の部分での、企業誘致の促進、推進の取り組みにあわせて、起業支援の内容も含まれているところです。地元の企業とのマッチングや新たな仕事生まれてくるという部分として取り組んでいくこととしております。

(会長) 繰り返しになりますが、ありがたい姿は 2030 年の天草市でこういう状況にあるという姿のことを指していて、それに対してこういうことをやりますということですが、職員の人材育成も今までも研修などが行われているのですが、未来につながる政策や事業形成などをどんどん行っていくには、天草の未来につながることは

きちんと推進していくような力が非常に重要になってくるので、財源を確保することも必要ですし、そ自分の目の前の仕事だけではなく、少しでもやったほうがいいなということをどれだけ気付いてやっていくことで力強くもなるということです。安定的に仕事をしていこうということに加えて、職員が起業家精神を持って挑戦していくことが、何か見えないところに挑み続けるというキーワードにならないかと思ったところです。それに対して成果が上がっているかどうかをみんな確認していければ天草市がいい行政経営になっていることが確認できる意味合いもあると思います。

(委員) 2030年には、定年という概念がほとんどなくなるのではないかと思います。70歳以上になっても働き続ける場所があるといった表現のほうがいいのではないかと。健康状態や、70歳、75歳と年齢が変わっていく中でも、自分のやれる仕事があるということが理想的と感じました。

(会長) 確かに若い方でも高齢の方でもそういったこともあると思いますので、そのようなイメージがあるのであれば大丈夫ですけれども、そこが欠けていると問題かもしれないので、事務局は確認をお願いします。

・基本計画（素案）について

○【資料4-3】産業経済部門説明

(会長) 後半の基本計画（素案）は、限られた中で市としてどう進めていくかというでもあり、委員皆さんには、先ほどの基本構想でのありたい姿を目指して、具体的に何を行っていくのか細かなところをまとめたもので、すでにやっていることもありますから、そのような観点で、意見を広めていければと思います。また、今日の話聞いて全部を議論して決めるのは無理がありますので、事務局の方から本日の議論を踏まえて、今後どんなように進めていくかなどスケジュール的な補足をお願いします。

(事務局) 会長からありましたとおり、範囲がとっても広く、多くの内容がありますので、あと3回の審議会ですりまとめていければと思っております。全体的に見ていただき審議していただいたものを反映させて検討するといったことを繰り返しながら進めていきたいと思っております。本日もご意見をいただきますが、本日の審議会以降でもメール等でご意見をいただければ、次の審議会でご報告いたします。

(会長) 本日は、基本計画については、それまで協議したありたい姿や理念を踏まえて、どのように反映できているかの確認になってきます。

計画ができた後は、指標をみながら、これに関して、各専門部会から実施した事業の説明を受け、評価検証を繰り返し行っていくこととなります。そういったことも意識し、まずは産業経済部門についてご意見をお願いします。

(委員) 前回、事業承継についてお話ししたと思いますが、先ほど別の委員から若者たちの創業の話が出ましたが、私は逆に何十年と続いてこられた会社を簡単に辞めてしまうというのはもったいないと思います。会社には取引があり、実績もあるわけで、そして辞めていかれる方の半分ほどが黒字の状況でもあります。黒字をまだ生かしていく、そして誰かに引き継ぐ、その引き継ぎを新しい人、若い人たちに

できれば一番いいと思っています。あと、働ける場所がないというのが一番きついですよね。もう少しこの部分を書かれてもいいのかなと思います。企業がなくなってしまうとそこで働いていた人の雇用もなくなってしまいます。事業継承などを移住者のPRの中にも加えながら、発信していただければと思います。

(事務局) 今ご意見いただきました内容につきましては、産業政策課で現在取り組んでいるところでもございます。また、地域政策課を通じて移住者の方や「Ama-biz」を通じたりなどいろんな形で働く場所についてはお尋ねが上がりしております。このような部分は、関係するところと連携をし、今後取り組みとして進めていただければと思っております。地域政策課の方とも内容については、協議をさせていただきたいと思っております。

(委員) 「Ama-biz」の役割は大きいと思います。「Ama-biz」の支援の一つとしても事業承継で悩んでいる方とをつなぎ、事業を紹介するような天草ならではの支援そういったことができないかと思うのですが。職を求めている若者に対する表現が入ってくるとありがたいと思います。

(事務局) 今ご意見いただいた「Ama-biz」については、今回、施策計画の中で商工団体をはじめ、商工事業者支援団体、この支援団体が「Ama-biz」を指しているところになります。説明がわかりにくい部分あると思いますがご理解いただければと思います。「Ama-biz」は個別の事業名となりますので再度検討させていただきたいと思っております。

(会長) 確かに総合計画となるので、名称が変わることも考慮しなければいけないかもしれませんが、逆に曖昧にすることばかりにくくもなるので、できるだけわかるような計画がいいのかもしれない。

(委員) ありがたい姿の「働き続ける場所」について提案します。天草市の人口の一番多い年齢層は団塊の世代で、2030年の時に定年が終わって、一番人口のボリュームが多い層が仕事を辞めているという事態になると思うのです。「働き続ける場所」に対して支援する施策があるということは、天草にとってとてもいいと思っています。施策に関しては、1つ目に新しい取り組みを応援するという部分と、2つ目に企業誘致等において若者の働く場所を創出するという2つの取り組みが挙げられていますが、これに加えて、65歳以上の方々がどれぐらい就労を続けられるかという支援策もあるのではないかと考えたところです。例えば、取り組みの1つとして、65歳以上の就業者数を現在と比べてどれぐらい増えているかとか、65歳以上の方々のうち何%の人が就業を継続できるかっていうのを指標にするというのかなと。

(会長) 今の話はありがたい姿にもつながっていくものがあると思います。

(事務局) 今のご提案のとおり、今後の人口の推移を見た時には、10年後には、生産年齢人口と高齢者人口は逆転します。65歳を過ぎてもどんどん働いていただかないと天草の生産活動が停滞すると思います。確かに今回、若者向けの取り組みが見えていると思いますので、高齢者の方々も働きについても何か支援ができればなと思いますので検討したいと思っております。

(会長) 今の話は産業のことではあるのですが、農業などにおいても継承の問題、高齢化の問題もあるわけです。農業分野では全国的に見て、農業のシステムなどを活用し

かなり上がっているそういう感覚で考えたら、若い人も働くことができると思いますし、さらに、例えば年齢が高いといわれる方が副業的に提供を始めることが増えてきて、そういった方々がいろんなことを学び続けるためには、農業の最先端な取り組みを学び続けてくれればそれでいいわけです。創業の話にしても、ベンチャー型事業承継という言い方ができます。単に今までは個人間での継承だったものを大企業などが引き受けていくみたいなことが増えてくる、そのような観点も含め事業承継の話もやりますだけでなく特色のあるようなものを出していかないといけないと思います。

(委員) 私は先輩方のすごいエネルギーを感じています。年齢に関係なく、本当にどんどん突き進んでいる方も多くて、逆に私が本当にエネルギーをもらっているような場面が多いです。例えば漁獲高が下がっている、森林を守る人が少なくなっている、農業もいろんな厳しさがあるというようなことは事実として受け止めますが、だからこそチャンスだというのは、負け惜しみではなく、そういう書き方をすると中学生や高校生にも見てもらいたい内容になるのではないかと思います。材木価格の低迷と記載されていますが、今は、木材の価格が上がってきていてチャンスだと思います。この木材価格の低迷というのは少し前のことであって、水産物、漁業の方もどんどん新しい美味しいものを作られて、いろいろな賞を獲ったりされています。今は本当に動き出すチャンスだと思うので、だからこういうところを優先的にみんなで取り組むというようなそういう道を照らすようなことが必要だとも思います。事実は事実として、だからこれやると面白い、楽しいでしょというトーンで書けるといいかなと思います。先日、ある講演を聞いて大変感銘を受けたことがありました。その仕事で食べていくのではなくて、仕事のために食べる。今はその姿勢をかなり多くの方が持っていると思います。やりたいことのために食べる。そこからすごくヒントをもらったかなと思っています。こういう状況だからこそ、やっぱり楽しんで突破口を見せてあげる。その方がいいのではないかなと思っています。全体の中で危機というよりも、こういうようなところにチャンスがあるみたいに、少し工夫して書けるのであれば、ものすごく丁寧に施策として最後の表現の仕方を皆さんと協議できるようなことがあるといいかなと思います。

(会長) このことは全体に影響することかもしれません。私もすごく感じているところもあり、どうしても役所の皆さんはしっかりといろんなこと考えないといけません。物事で皆さんのやる気とか、機運が高まるとか、ワクワクするとか、これがあると生産性も上がるわけです。そこに関して挑戦していくということが重要な要素だと思います。特にこれに関しては、頑張ってくださいというわけですね。天草は面白いなという気持ちを作れるかがどうかがかなり重要です。皆さんが面白くありたい姿として未来を作りたいと思えることを示さないと、書きぶりとしても、全般的に現状課題にしてもマイナスのことを2030年にはこんな楽しい未来、チャンスが来ているということをきちんと伝えるようなことをやるべきことだと思います。そこにすごく意識してあることを特に考えていくと、地域の事業者への機会を提供していくことに対してしっかりと考えているということが重要な要素だと思います。

(事務局) 私もこの課題を見た時に、やはり危機感的な課題として表現が多いと感じています。その課題をチャンスと捉える書き方ができれば、その後に出てくる施策計画にもチャンスに向かっていく施策計画に第一印象としておっしゃったようにワクワクするとか、チャレンジしていくということがあれば、そういった表現に変えることによるって、イメージも違ってくると思いますので、全体的にも見直しをさせていただければと思います。ありがとうございます。

(会長) やっぱり未来のことですから、ワクワクすることが大切だと思いますし、気になる兆しです。こういう兆しが気になる。こういう言葉がでてくればとも思いますが、だからといって、それをやるという約束にはならないと思います。こういった未来をちょっと気にかけていこうと思いますみたいなことを、常に出し続けるというようなことで必要だと思います。

(委員) 若者について、限定的に書かれてしまうっていうのは、自分が高校生の時を思い出してみても、子供たちにとっては一体何が職業なのか、何がどんなことでみんな生活しているのか、多分本当に体験していかないと分からないことばかりだと思います。そういうことを知ることができる場所がすごく少なくて、例えば、働ける企業誘致にしても IT 関係、CG 制作会社、デザイナーと限定されてしまうと、たくさん溢れてしまうことにもなるし、ほかは何も応援してもらえないというふうになるとも思います。それであれば、林業や漁業と人が足りていないところにそのワクワクするという要素をもっと組み込んでいくということがあると、プラスになっていき、この総合計画自体をあまり高校生とか読まない前提だと思えますが、高校生たちが読んで、自分たちでこの冊子にそって動く、小学生ぐらいから一緒に参加するといった場があるということを実施の中の 1 つで入れていただくと、それが教育の肝だと思えます。そういった強みができる場所だと思うので、ぜひ考えていただけたらと思います。

(委員) 天草の中で働くという内容が多いと思ったのですが、市外、県外、外国まで発信をしますと言いますか、天草のいろいろなブランドはたくさんあるがそれを知られていないような状況もあるのと思っています。産品にしても、魚にしても、いろんな陶器にしても東京ではあの見たことがありません。いいものがあるのですからみんなの目に触れるような発信の仕方、PR とかいうのも一つ、稼ぐためにお考えになるのはどうかと思い、提案させていただきます。

(会長) 今日は事務局から説明させていただき、皆さんからご意見をいただき、そういったことを次回ご説明いただければと思います。時間もありますので、経済部門は一旦終わらせていただき、個別に委員の方からも知り合いなどと話を行っていただいてもいいと思います。専門家で考えるとなかなか悩ましいみたいなことも事業者として見てもらえば、実はどういうことを考えているか、それからその他自分の事業のための研究に生かすなど、そういうことでもできると思います。

○【資料 4-4】観光・文化部門説明

(委員) 歴史と文化を感じ天草に誇りを持っていくというところで、世界遺産や歴史文化の承継と、キリシタン史、世界遺産にもつながるというところでここはとても大事なところだと思います。例えば、市内には本渡歴史民俗資料館の他にもいくつかの資料館がありますよね。個人的にすごく好きで、現在行われている本渡歴史

民俗史料館の企画展はとても面白いと思ったのですが、常設の展示をもっと面白くできないかと思っていて、また、他の資料館は中が見られないなど活用されていない場合もあり、とてももったいないと思います。あと、先ほど説明があった陶磁器の島づくりや高校生の就職などにも少しつながると思いますが、天草宝島国際交流会館ポルトと天草空港内に窯元の作品が置いてありますが、ダサイというか丁寧に扱われてないように思ってしまう。ポルトは、高校生がよく集まる場所でもあり、展示を見てもらえたら、「天草にはこんな窯元がある」「新しい窯元ができた」など、そこから行くきっかけになるかもしれないし、普段行きやすい場所から、自分が住んでいる地域の資料館に行くことによって、その場所を知って誇りを持つということができるのではないかなと思っています。文化施設の整備更新の計画に入っているのかもしれませんが、建物そのものというよりも、その中身の部分をもう少し洗いなおして地元の人でも観光客の人も行けるような仕組みができたらいいと思っています。大陶磁器展にはたくさんの方が訪れ売上もとても上がっていますが、ただ買うだけではなく、繰り返し買っている方はどういう場所なのかを知りたいという次の欲求も出てくると思うので、それに応えられるような仕組みを今ある場所・施設でできたら、繰り返し来てもらえるきっかけになると思います。

(事務局) 貴重なご意見ありがとうございました。文化施設につきましては、中身も含め、魅力あるものに更新していきたいと思っております。ポルトの展示につきましても観光協会と連携を図りながら改善したいと思えます。

(会長) そういった場をどう作るか、使っていくかという観点が重要です。繰り返し来るとするのは、施設が面白い、また、展示の魅力だけでなく人々がいろいろなことに惹きつけられているからだと思えます。確かに一回行き、また次に行きたくなると考えたら観光にもものすごく意義、価値があるだろうと思えます。何かそういう切り口は確かに重要だなと思えます。

(委員) 共感を生むということになります。天草に来る人達はみんな思ったよりよかったと言われますが、また来たい場所にするためには、もっと違いを出すことが必要と思っていて、疲れきって癒されに来たい方や、美味しいものをゆっくり食べに来たい方が多く、天草市がそういう場所だと思っています。その共感を生みというところで、市や他にも色々な方がされていて、また新たにされていくとわちゃわちゃしてきて、来ていただきたい方へ向けているのかと思います。また、歴史を知りたい方、ただゆっくりしたい方など色々な方もいらっしゃるの、ごちゃ混ぜにせずに、みんな違うところだけれども、でもカラーはすごく揃えていただきたいと思っています。揃えて、自分たちのことを出すのはなかなか難しいと思うのですが、他の地域がどんなプロモーションをされているのだろうというところをもう少したくさんいろんな人たちが見ていただいて、そこからすごく精査して作っていったらと思います。

(委員) 観光の面から天草の宝だと思うのは、海の良さだと思います。その中でも釣りです。こんなに身近で楽しめる場所はないと思っていて、地元の人にはびっくりするくらい当たり前のように釣りしていますが、外から来た人はどこで釣っているのかや季節に合わせた情報が入手しづらいと感じています。御所浦で釣りマップを作らな

いのかを聞いたことがあります。釣り人はそんなにお金を落としてくれない、ゴミが多くて逆に来てもらったら困るという話をされました。そういうことは言われる方も多いです。しかし例えば、地域の美化のためにお金を払ってもらうシステムを考えてもいいかもしれません。地域を守りながら堂々と釣りをするというのも今の時期だと言えるかもしれません。釣りの魅力をもう少しくましく生かしていいと思います。自然と共生するまちを理念としていただけるので。

(会長) 観光と自然が関わっていく、その営みも含めて、地域の在り方そういう見方もあるかもしれません。釣りだけでなく、普通に滞在しながら体験できる魅力もそういったところにはあるかもしれない。そのような見方をさせていただくと、自然と共生するまちにもつながっていくでしょう

(委員) 全国的に見れば海はそんなに遠くない存在だと思っています。その中で天草に特別に何が違うのかというイルカだと思っています。天草の魚が美味しいというのは分かりますが、それだと違う海でもいいと思われるかもしれません。天草にしかないようなことで観光として呼べるようなものがあればいいと思いました。

(事務局) 天草には、海に限らず、キリシタンの文化など楽しめる素材がたくさんあると思います。これらの素材が観光の所得につながっていないというような部分があると思います。天草は地理的な条件からみると、宿泊してゆっくりと過ごしてもらう場所だと思っています。そのためにはアクセスも大事ですが、宿泊先のクオリティを上げるといった部分についても天草はまだ弱いところだと思っています。文字としては書きにくい部分ではありますが、例えば、料理のレベルを上げる、サービスのレベルを上げるといったハードの面についてはどこまで行政が支援できるか難しい部分がありますが、やはり宿を拠点として周遊してもらう、魅力的なところはいくつもありますので、何度も来ていただけるというそういう仕組みをできれば思っております。もう一つ、やはり市民のみなさまが天草は観光地ということ認識していただいて、そしておもてなしや町をきれいにしよう、あるいはちょっとした観光ガイドができるようになると、つまりインナープロモーションが必要だと思っています。天草市民の方に、観光地と強く意識していただけるよう今後取り組んでいきたいと思っています。

(委員) この観光と文化のところで、すごく大事なポイントはつなぐということです。観光は結局そういうものなので、きちんとPRをすべき、あるものと人をちゃんとつなぐ、先ほどの意見のように地元の人と釣り人をつなぐ、いろいろなつながりが結局観光になってくると思います。計画書としてはこれでいいと思いますが、あれとこれをつないだら面白い観光モデルができる、海も使えよう、海でつながっているというのが天草の売りだと思うので、そういうふうにつなぐというのをたくさん出しておく、いい計画になると思いました。

(委員) みなさんの話も聞きながら、地元の子もたちが案外海で遊んでいないと思ながら、でも文化とどうつながっているのかとか考えていました。海のことを知らない子どもたちが増えている中、その親世代からも「磯遊びがどこでできるのかわからない」や「子どもに貝掘りを体験させたくてもどこに行けばいいのか知らない」という話が出ます。自然豊かな天草ですが、それを活用したり子どもたちにつなげるところがなかなか見えてきません。このことがどの部門に入ってきた

て、どのように今後の天草を担う子どもたちにつながるかと思っています。文化かとも思いましたが、自然と共生するまちという理念のところをいくと、子どもたちがここから育っていかないと、今後何十年後っていうときに、人が育っていかないのかなっていうことを考えてしまうので、ぜひともこのような目線も入れていただければと思いました。

(会長) 今はそういうことがやりにくい時代だということもあると思いますが、このことを文化というところでどう見せましょうということ、改めて先入観を少し変えて、文化財や文化の仕事していた人たちがこれまで培ってきたものがあり、これからも作っていくということでもあり、この文化とは人々の生活でもあると思います。キリシタン関連遺産ももちろんわかりやすいけれども、これまで培ってできてきたことが一番強い観光になりやすいわけです。そういった意味合いでの文化を考えていくと、観光という意味でも文化と観光はつながっているということに意味があります。天草に一回来てもらって、良さを分かった人たちが自分の好きな時期に繰り返し来る、そういうことが作れば、つながり続けることで人たちが増えてきて、定着につながっていきます。そういったことが観光が担っている大きなことと考えるといいと思います。

(委員) 私は宿泊したホテルで美味しいお寿司屋さんを聞いたのですが、「私は詳しくないのでわかりません」と返ってきました。その後、本渡バスセンターの受付でいろいろのことを聞くと親身に答えていただき、またこのバスセンターを使いたいと思いました。市民全員とまではいなくてもホテルや観光名所の受付といった方たちにはぜひ勉強してもらえれば、全体が非常に印象のいいものになるのではないかと思います。

(委員) 今、河浦中学校の生徒たちが、世界遺産の崎津集落でボランティアガイドをしています。そのようなことを総合計画のどこにその表現するかを考えていました。また、確かに現在は、海のことを知らない、川は危ないし汚いということで、この海に囲まれている豊かな天草の地でさえ、いびつな環境で子どもが育っています。おそらく、海で泳いだことがない子どももすごく多いのではないかと思います。野生児である子どもたちを見落とし、欠落している部分があるのではないかと思います。

(会長) これまでの意見で、文化はこれまで作ってきた歴史で誇りを持つべきものでもあり、生活文化もあるということが出されました。当たり前すぎて気づきにくいですが、これだけ豊かなものあり、この良さを伝えられることをしなくてはいけないと、そのような切り口が出てきた気がします。この文化の感覚をいろんな部門と連携していくことは産業にもなるということも言えるでしょう。

(委員) 私は天草町に移住して10年が経ち、子どもが4人います。天草町はいろんな人から僻地と言われ、何もないと当時から言われました。本渡から天草町に来る人には、何十年ぶりに来たと言う人や初めて来ましたと言う人が結構いらっしやいます。今はサンセットカフェさんがあり私もお店をしています。少しずつ皆さんの足が向いてきている感じがあります。先ほどから子どもたちが海遊びをしないという話がありましたが、天草町でも福連木の子どもたちは海に入りません。川があるので。なので、そういうところを、子どもたちが自分たちの誇りとして

子どもたち同士で交流し、案内ができるということは観光でもあり文化、教育と全部が合わさると思うので、そういったところの連携を少し強めていただきたいと思います。子どもたちが知るチャンスが、観光にもつながると思うので、子供たちが観光客を相手にするなど、商売でなくてもできたら、もっと楽しいだろうと思っています。

(会長) 面白いですね。皆さんご意見は的確だと思います。マイクロツーリズムや近場の観光が表現されていますが、観光も地産地消ということがもう少し伝わってくるいいかと思います。それがないと結局いいものにならないわけで、他にも地元の人たちが当たり前に使っているようなことも観光であって、天草は10地域それぞれ違うところがあり、そういったことをしっかり育て地域内で消費することは逆に外貨が出ていかないので、地域内で意図的に経済循環を作ると地域の産業につながると思います。

(委員) 牛深にUターンで新しく美容室を開かれた方と話しましたが、牛深の中学生高校生くらいの子が、休みの日に行くところがないと言うらしいです。牛深は海もきれいなのがたくさんありますが、海にも行かないし、自分たちが行きたいと思えるような場所がないから、家の中にいて結局ゲームをずっとしているそうです。その美容師さんは、行きたいと思えるような場所づくりをしたいと言っていました。親に連れていってもつまらないと思いますし、例えば、自分たちで牛深から高浜まで行けるとか、バス会社の協力が必要かもしれませんが、若い子たちが自分たちで天草島内を回れるような仕組みができると、出掛けるきっかけになり、島内の別の場所に行くことで、思い出ができ、気づきが改めて返ってくることもあると思ったので、地元の若い子に特化したようなプランとかがあったら面白いのではないかと思います。

○【資料4-1】地域振興部門説明

(委員) 指標が小学校5年生の新体力テスト調査と比較されていますが、なぜ5年生で、どのように生かされるのかそのあたりのことについて教えてください。

(事務局) 小学校5年生という点についてですが、スポーツ推進計画小学校1年生から6年生の全学年において体力を上げていくことを掲げております。その中で、高校生、中学生、小学生のそれぞれ卒業する2年前の学年の数値を把握し、体力スポーツ実施状況などの調査をしている部分がございます。小学校5年生の体力が落ちているという部分があり、今までの行っている調査での学年を対象にしたところです。このスポーツテスト、新体力テストについては日本全国統一して行っており、8項目ありますが、それを上回る部分を目標として掲げたらどうかと思い設定しております。

(委員) このことが学校現場の指導に生かされて、子どもたちの体力向上につながると思います。そういった状況になるととてもいいと思います。

(委員) 施策計画の基礎健康体力づくりの推進というところ一つ目に「健康寿命日本一を目指します」ということがありますが、この指標の中に健康寿命についての指標が一つであってもいいのかなと思いました。

(事務局) ご意見ありがとうございます。この成果指標の中に健康寿命の部分を盛り込むということも実際考えたところでございます。健康増進課の協議をした中で、健

健康寿命という部分を数値としてとらえにくい部分があり、盛り込めてないところ
です。健康ポイント事業への参加者数から市民の健康への意識が上がり、ゆくゆ
くは健康寿命へとつながっていく、そういった意味合いで今回指標として入れた
ところでは。

(委員) 表現の仕方を工夫した方がいいと思います。

(会長) 目指すことはいいのですが、それが図れるかどうかというときに、どうしても
できないから参加者としているのかもしれませんが。もう少し成果を実現するため
にはこういう前段階の状況が起こっていて、健康寿命日本一のなるには皆さんがこ
ういう行動をしてこういう生活をしてこういうのがある、そのためにはこういう
ような、その例えが事業参加としているという仮説があったらいいのですが。参
加者数が増えたからといって、健康寿命日本一なれるのですかということが今の
質問だと思います。

(委員) 指標として、例えば要介護が必要になってないというのは逆にも考えられると思
うので、介護の認定者の割合が減っているなどを 2030 年の目標とすると変わっ
てくるのかもしれませんが。健康寿命を図る指標として、あとは病院にかかっている
人の割合が減っているなど、そういう指標が参考になるのかなと思いました。

(委員) 男女共同参画のあらゆる分野における女性の参画拡大の中で、市の審議会等にお
ける女性の登用があります。審議会の委員は、例えば妊娠中である、任期中に妊
娠する考えられますが、そういう人も委員なってもいいのでしょうか。また、講
演会では子どもを置いていけないから参加できないという人もいるわけですが、
このような部分に対する視点がどのようになっているか伺いたいです。

(事務局) 審議会委員の皆さんには、特にこのような人はダメだということはありません。
妊娠中の方も当然です委員になれますし、講演会等につきましては、子どもの預
かりが必要であれば整えていく必要はあるかと思います。

(委員) もし赤ちゃんがいる人が委員になった場合は、その人の託児費をどうするのか
などあると思いますので、検討課題としていただけたら嬉しいです。

(会長) 特にいつも行っていることを組み合わせると意識するといいと思います。今の意
見は、子育て世代の方、妊娠中の方にきちんと寄り添っていくことをしっかりと
確認した方がいいことだと思います。3 年以内に明らかにできることはたくさん
あると思いますし、逆に 3 年間の中でやらないといけないことを考えることも必
要です。

(副会長) 女性委員の方が増えるのは大賛成です。しかし、女性の割合を増やすだけでは
いけないとも感じています。その方々の質をあげるというか、満足度を上げてい
くことが必要だと思っています。さらに言えばその数が増えただけじゃなくて、
より働きやすくなったとか、その質のアンケートみたいなものがあるといいかと
も思います。他の自治体ではシニア市政アンケートがあります。該当の委員の方
に満足度を聞いてそれを高まるようにやっていくとすごくいいのではないのか
なと思いました。天草市がすごく頑張っているということがアピールでき
るところになるとと思います。天草の女性みんながすごく生き生きと委員をやっ
ているといいなと思いました。

(会長) 実際に女性の審議会のメンバーを見たところ、いろいろなところで女性のことに

対してだけではなく、まして性のところだけではなく、いろんなどころいつも追求しないといけないということもあると思います。明確に言っていただいたと思います。それに関してどう考えるかということをしかりと考えていくと、よりメリハリが効いた政策になるかなと思います。

(委員) 先ほど牛深の中学生が行きたいところに行けないという話がありました。市民が安心して暮らせる環境としての交通網であって、非常に重要なことだと思います。行きたいところに行き、体験する、人に会う、これに勝る刺激はないと思います。課題に掲げてある市民の公共交通を乗って守るという意識は、もしかしたら不便なのに我慢してほしいということかもしれません。もしそういうことができなければ継続性が担保できないと思います。つまり、限られた予算の中でどう利便性良く便利だったら皆さん使う、便利じゃないけども守ってそれに乗ろうというのであれば拡大しにくいと思います。そういうギャップを埋めるためにもUberというシステムもあります。あとは、自動運転です。グルッと回れるようなそういう実証実験から始めてもいいと思います。このような時代がくるとと思います。熊本と牛深が生活拠点、この辺が実際に一時間で一本なのか、どういう形で繋げていこうというなにか絵があるともう少し我々も努力してみようとお互いの協力体制ができると思ったところです。自分が行きたいところ、それがもう年齢問わず、そこに交通網があるっていうのが非常に重要なことだと思います。

(事務局) 貴重なご意見ありがとうございます。施策計画の中には交通サービスの連携と持続可能な公共交通の維持という形で載せておりますが、委員からのご意見の通り、天草は非常に面積も広く基本的にかう市の方針の考えとして本渡を中心として各旧町の幹線道路はとにかく維持する、地域間の中の方は例えばデマンドの乗り合いタクシーや高齢者支援課が取り組んでいる福祉タクシー券を利用するとそういったその地域の特性に合った形で実施していこうと考えています。定期的に地元の区長さんなどを通じてアンケート調査をしており、ある程度需要が見込めて要望があったところには天草管内でも予約制のデマンドの乗り合いタクシーを始め、現在5地区で取り組んでおり、新和地区では乗り合いタクシーも実施しています。牛深の天附地区ではバスがないので、乗り合いタクシーの実証実験を行ったこともあります。ここでは中心部まで近いということもあり、福祉タクシー券として初乗り運賃を補助する制度があるため、本格運用にはならなかったところです。今年度は計画を立てる年でもあります。計画の策定にあたっては、交通事業者、老人クラブ会長、地域の団体の方も入っていますので各地域実情に応じた施策として検討していきたいと思います。

(委員) 自転車をバスに載せられないでしょうか。東京に住んでいた時に、自転車を気軽に電車に乗せて行けることがなかったのですが、最近は増えていて、自分の自転車を電車に乗せて千葉の方に行って、歩く、自転車で走ることができます。非常に機能的なことが実現できています。そもそもバスに自転車を載せようと発想もなかったと思います。

(委員) 関連するかもしれませんが、サイクリングです。この下島も上島も活用できればと思います。将来的にこの地域振興として、先ほどの観光振興や観光文化とも関連するのですが、何か目玉が欲しいですね。例えば天草ってこれだって銘打って、

上天草市と苓北町と天草市の2市1町で取り組みますとなると誘致にも繋がります。広い天草で一緒になって取り組むということでもまた違った形で活路が開けるのではないかなと。そういった抜本的な取り組みができないかなという気もします。あとは、キーワードです。天草市はこれを頑張っている、例えば移住定住など掲げてみては。

(事務局) 確かに天草にはこれっていうのはあったほうがいいという意見はあります。天草にはたくさんの素材があってそれが天草らしさだというような意見もあります。呼子でいったらイカ、魚だったら関アジ関サバとか、そこまで絞って目玉っていう形が確かに集客の大きな力にはなるとは思います。天草は天草ならではのいろいろな地域があり、いろいろな宝があって、そういったのを上手く活用、循環するという形で進めていければと思います。一方で、ご指摘いただいたようなことも必要だなと感じているところです。天草の場合は、範囲も広く、地域性もあり、目玉が難しいと個人的には思います。

(委員) 移住定住のところですが、移住定住の活動は十分成果出ていると思うので、その先の働き方などと合わせるなど多様性が必要ではないかと思います。いろいろな人、外国人や子育て世帯など来てくれる人、そこで新しい仕事を作ってくれるという戦略的な移住定住を掲げるのはどうでしょうか。例えば、今天草市で農家が減っているから、農業を行う方は優遇しますなど戦略的な移住定住を促すような政策があったらと。他にも、空き家を自分でリノベーションできる人には、特典がありますなど、同じ移住定住するのにもメリットが感じられて、しかも皆さんがおっしゃっているような海が好きな人には海割りなどがあったらいいなと。わざわざ選んできてくださっているのだから来ていただいて定住してもらおう、好きになってもらうことが大事だと思います。

(副会長) 多様性を認め合いのところになります。内容を見ると、男女の多様性しか書かれてないと思います。LGBTや外国人、障がいのある方もあると思うのですが、こういったことに全く触れられていないので、最初のステップとして男女というのであれば今後そういった分野もかなり重要となっていくと思いました。男性女性という言葉がすごくありますが最近では性別を聞くのも男性、女性、答えたくないというアンケートの答えも世論の流れとしてはあり、そちらに向かっているのは確実なので、今回ではなくても、今後そういったことを考えていただくと他の自治体よりも一歩進んだ感じになると思いました。

(事務局) このありがたい姿には幾つかの政策がつながっており、その中の一つとして男女共同参画社会の推進という政策がつながっております。男女の差や政策的にいろんな構造的な課題とかもありますので、男女共同参画っていう形で受けさせていただいております。男女共同参画社会基本法にもきちんとうたっており、取り組んでまいります。LGBTにつきましては、人権関係の方での取り組みになるかと思っております。

(委員) スポーツ施設の申請者数の増加に繋げていくということに関してですが、私は多く使いたいと思うし、実際使っていますが、申請がとにかく面倒です。この基盤整理のところ、予約のしやすさやオンラインで全ての予約完了できるようにするなどすれば、一つの切り口として年間利用者数を増やすことができるかなと感

じました。

(事務局) 施設の申し込みについては、インターネットで予約状況を確認できるようになっていますが、実際は申請のために窓口に行かなくてはいけない、あるいは本庁に来ていただければいけないというのが、現在は原則で行っております。市民の皆さんからも同じような意見をいただいているところです。今後、新たなスポーツ拠点施設も整備されますし、それも含めて、できるだけ利用者の方が使いやすいような方法で進めていきたいと思っております。本年度は新たな計画を作る年になっております。委員さんからいただきました切り口も含め利用者を増やす方向に計画を盛り込んでいきたいと思っております。

(事務局) 先ほどのご提案に関しましてネットでの申請という話がありました。この件につきましてはスポーツ施設だけでなくコミュニティーセンターなど他の施設もあります。現在、ネットで申請できても料金の払いは現金となっております。今年度からDXによる行政手続きに取り組んでいくとしており、その中でできることの検討を始めています。すぐできるかは分かりませんが、そういった方向性で進めておりますのでご周知いただけたらと思っております。

(委員) 移住定住に関して、例えば、高浜にはお店が極端に少なく、少ないのも売りですが、観光で来ていただくときに海水浴場があってカフェもあるのですが、朝いちばんに散歩していただくコースとして、パン屋さんがあったらいいなど話をいつもします。その時に誰か移住してきてパン屋さんやってくれないかという話になったりするので、ピンポイントでできる方とマッチングができるというのを移住定住の中に盛り込んだりできないかと思っております。あと、以前市が移住定住の動画を制作した際にそれに出演したのですが、結局あれを見て移住したいと思った人がどれだけいたのかとすごく思った内容でした。例えばドキュメンタリータッチにしてもっと詳しく掘り下げて、もう誰が見てもこういう生活をしている人がいるとか、何通りかした方が伝わりやすいと思えました。天草はすごくいい場所です。キラキラしています。宝島ですというような内容だったと思っておりますが、そういうことにお金を使うのではなく、この課題を解決する、全部とは言わないですけども誰が見てもいつみても分かるように届けられたらとても素敵なんじゃないかなと思っております。

(事務局) まさに私も四月から今の部署に異動し、Facebook などを見ましたが、あまり更新されてないというようなことも気づき、指導をしました。実際、移住してこられた方の意見をよく聞かせていただければなと思っております。さきほどマッチングの話も出ましたが、移住定住は地域政策課だけでとまることではなくて、先ほど意見があったように、仕事の話も当然出てきてそれに関連している部署もあります。ハローワークもあります。また、行政、都市部からの移住で来られた移住コーディネーターの方もいらっしゃいます。今日のご意見も参考にしながら、役所内、JA、商工会議所など含めて職業とのつなぎとなどを行っていききたいと思っております。

(委員) おそらく、観光で何回も天草に来られている方は、住みたいと考えている人もいると思うので、もう少し深くいろいろな方と繋がられたらもっといいのかなと思っております。

(委員) 同じく移住のことですが、私も移住してくる際に空き家バンクなどを本当に熱心に見て、すごく昔から力を入れてくださっていると感じています。しかし、実際に住む時になると、結構戸惑うこととというのがあり、賃貸と売買では違いますが、最終的には不動産業者の方が入るのか入らないのかというところが、最後の最後まで曖昧だったり、不動産業者が入ることは都市部では当たり前で業者がいろいろと行ってくれるのですが、田舎の常識でもらえないこととかが結構あったりして、移り住む側としてその地域の人たちとどのような関係を作っていくかということももちろん大事なところで来るまでのサポートというのはそれなりにあると思いますが、貸す側と売る側のトラブルになることがあるということを知ることもあります。その部分の取り組みについては、移住定住サポーターの登録者の増加、これが移住してきた人がサポーターになるってところで、できる部分もあると思います。それから、国内だけではなく外国からの移住者の方も増えてきたりすると思うのでお互いが気持ちよく住むためにもそういったところが改善されていくといいのかなと思っています。

(事務局) 天草市の場合、空き家はものすごく多くあります。今年度空き家調査を実施しており、聞くところによると4件に1件くらいは空き家ですが、空き家バンクに登録される件数は少ないというところでもあります。いろいろな理由があると思いますが、誰か分からない人に貸すのは抵抗があるや仏壇や物があるなど大きな理由と聞いています。今までは、できるだけ空き家バンクに登録してくださいとお願いしているところで、先ほど委員さんに指摘されたような貸す側の方の気持ちのところですね、そこまで十分な周知といいますか、届いてないと感じました。今後こういった内容になるか分かりませんが、そのような視点も含め検討したいと思います。

(会長) ありがたい姿に天草での暮らしが共感されるということが加わりました。政策として移住定住促進となっていますが、この暮らしが共感されているという少しポヤっとしやすいと思います。場合によっては複数の政策になってもいいのかもしれない、移住定住に関してのことかもしれませんが、天草での暮らしが共感されるというのは、前の文化の部分であった地域の生活そのものや皆さんが作ってきたことが文化になります。そういった地域で作られていたり、今後作られていくものたちがきちんと地域の方々へ共感されていくことがすごく重要なことだと思います。そういったことでメリハリをつけていただくのも必要なことかなと思います。

(委員) 市民活動のところで気なっているのですが、課題というところで自立かつ安定的な運営基盤が必要だとあります。市民活動団体自体の課題なので、市の施策の中の課題として上げるのであればいいのですが、この運営基盤の強化は必要な団体をどう支援するかが課題という表現になってくるのかなと思いました。

(委員) 移住定住でこれから海外からの移住者が増えてくるとは思いますが、結構ハードルが高くて。今、大阪の会社からインドネシアの大学のインターンシップで大学3年生が1年間短期で日本の漁業水産業に興味がある方が働いて、企業にどうですかという留学という形で独身とかの大学生なのでフットワークも軽いし、まず1年いてみよう、そのあと定住移住してくれるかは分かりませんが、そのような

外国の人を天草市として誘致ではないのでしょうか。そこで働かれる1年間で、いろいろこういう仕事ありますなど体験として発信していくと、また他の移住定住、国内にいる方にもこういう仕事があり、こういう生活という取り組みやすくなり、イメージもしやすいのかなって思いました。

(事務局) ここ1、2年コロナ禍の中ですが、意外とファミリー層の方からの問い合わせが増えてきていると感じているところです。取り組みとしてはまだ始まっていませんが、保育園留学というような今後ファミリー層関係の移住における実証事業を考えているところでもございます。

○【資料4-2】教育部門説明

(副会長) コンパクトによくまとめられていると思います。学びというのが全部にかかってきて、学校教育とかいわゆる教育分野だけでは思いました。一点だけ難しいことかもしれませんが、ぜひ先生の働きやすさという部分が入れられたと思います。天草で先生になれてよかった、天草に赴任してよかったみたいな人が増えると、子どもたちがその笑顔の先生からきちんと学ぶことができると思っていて。先生にアンケートをしてもらってもいいですし、学校教育変えるのは教育の根本だと思います。

(事務局) 施策計画の学校教育の充実の学校現場における人材育成の観点からのOJTや指導力を高めるための教職員研修を充実させるというところで考えているところです。今おっしゃられた通り魅力ある先生が魅力ある子どもたちを作るとするのは、私たちも考えるところではございますので、特に今回重点的に強化をしていきます体験学習を絡めながら、先生方にも天草のことよく知っていただいて、その魅力をうまく子どもたちに伝えていただくというところを通じて、天草を楽しんで教えていただくというところを進めていきたいと考えているところです。

(副会長) 働き方改革となるとどうしても時短という方向にいきます。そうではなく、先生が満足して教育できるような環境、確かに時短も大事だと思いますが、先生のワークライフバランスを見ていけるようになるといいと思いました。

(委員) とても幅広い分野のところどこまでコンパクトにまとまっていて、本当にすごいなと感じました。一つ、次世代の担い手育成のところ、現状と課題がかなり幅広く感じますが、政策面での次世代の担い手の育成という、次世代の担い手に何が必要なのかが現状と課題に書いてあって、次世代の担い手にはこういう能力が必要だから、こういう政策が必要っていう説明の流れにした方がわかりやすいと思います。全体的にこの審議会の中で話しあってきた中では、一次産業、農業を伸ばしていきたいとか、一次産業が今あるものをもっと効率化するとか、リモートで天草に残りながらも仕事ができるようなITスキルを高めていくことが次世代に求められるのであれば、もっと教育面に関して魅力ある授業作りや地域との連携の充実など体験的な学習活動をアバウトな形ではなくて、農業を絶対体験させるや漁業を体験させるなど具体的ところが明確になっているのではないかと感じました。

(事務局) 何が必要なのかという部分では、能力を高めていってという部分、この現状課題のところというか、政策の方で体験と大まかなこと表現しております。具体的という部分も含め検討させていただきたいと思います。

(委員) このどういう未来を育てるかというところでも、教育を支える環境づくりの部分では、老朽化しているところを直すだけではなくて、新しく何が必要になってきて、つながっていくと思いますので、触れていただくとありがたいです。

(会長) ありがたい姿が大きく、政策としても大きいままだとなかなか悩ましいところもあります。この辺りはもう一回、前から考え直し、ありがたい姿をもう少し分けてみるとかも必要かもしれません。結果的に今度のもっと大切なものとして、その2030年の姿として、こういう姿だよなってことになってきます。目指すこととなっていると、このあと動くことができないので、ありがたい姿を、別にこの教育の関係の皆さんとしてはもっともっと複数のものに分けてもいいのかもしれませんが。そうしたら、地域の産業や環境でも使いながら、結果的に学校教育の中に入ってきたとしていいと思います。少し検討をお願いします。

(委員) 今、ご指摘がありました、大きな学びというところで傘が広がり、とてもいいと思います。この学ぶ領域がたくさんあって、この地域社会に活かすということがありがたい姿であればこの地域社会で今必要な課題、課題イコール学ぶということが成果に結びつきやすいのではないかと思います。いくつかの細分化されるとその課題もですが、まず前提にあるとその問題意識を持った人たちの横のつながりができ、ある人は子どもたち、ある人は交通とか、ある人は農業とかだから、これだけ地域で課題があるってことは、それだけみんなが学んで解決したいという同じベクトルにくる感じがします。これだけ課題があるってことは、実は学ぶチャンスでもあります。リカレント教育をいかに社会に一回出てからもう一回学ぶかというモチベーションにとっても、もっと学んでもっと成果を出すということであると、ただ学んで自分自身にというのもあると思いますが、地域に活かすということであれば、課題をまず抽出して、それに紐づくグループ化した方が現実的な精査に近づくかなと思います。

(会長) 全体的に検討しているその課題に対するありがたい姿を検討していただきたいと思います。お互いに指摘しよう、ありがたい姿をつなげるとこういうことも地域社会に活かすなどに繋がると思います。

○【資料4-5】保健・医療・福祉部門説明

(委員) 健康寿命の延伸で、健康ポイントの事業参加者数が成果指標としてあげられていますが、この現状にして下がっている生活習慣を有する人の割合にした方が明確になると思います。あと、死因の50パーセントが生活習慣となっているので、どういう死因を減らしたいのが成果指標になるのかなと思っています。成果指標が曖昧だと、この政策自体が具体性に欠けていくと感じました。また、施策計画として健康作りの推進となって、箇条書きで書いてありますが、具体的な施策としては弱いのではないかと思います。そして、生活習慣改善の促進ということで、「地域がより良い生活習慣を身につけ、生涯を通した健康作りを推進します」というところで、何を推進するかということが上がってきた方がいいと感じました。それと、がん検診のところの受診率の向上に取り組むと記載してありますが、成果指標がアンケートだけになっているので、受診率の向上というのを、成果指標の一つとして、取り組むとっと具体的に取り組めるのかなと感じました。また、特定健診等の受診率向上が掲げてありますが、これも成果指標に混ぜるとよ

り立体的なアクションになるのかなと思いました。そして、市立病院の病床利用率が成果指標としては上げられています、その市立病院の病床の利用率が上がった方がいいのか下がった方がいいのか、どうなったら安心して医療介護を受けられる体制の強化として指標になるのかがよくわからなかったので説明をお願いします。続けます。安心できる地域、医療体制の整備のところで、安心できるという成果指標が市民アンケートになっていますが、行政として何をもって安心というふうに定義するかを明確にしないと具体的な取り組みなどが進みにくい感じではないかなと感じました。例えば、人口に対する病院数の割合や、人口に対する必要な診療科の数などそこに配置されている医師と看護師の数を成果指標として置く方が具体的に組みめるのではないかと感じました。あと、介護保険制度の安定運営というところで、収納率の向上に取り組まないとあるので、それも成果指標の一つにする方が明確なアクションになると思いました。最後に安心して暮らせる環境づくりのところで、成果指標を例えば、民生委員とか児童委員団体等の活動を支援するというのがアクションとして上がっていったので、この活動数や団体に属している数、数を市民に対してこれぐらいの人たちがボランティア活動に取り組んでいる割合を増やしていくというような指標にするとわかりやすいのではないかなと思いました。

(会長) 指標に関しましては改めてこういう形で議論すべきだと思っていました。ありがたい姿を目指すからこそこういう状態が出来ていて、だからこういう施策は効果あるという見え方ができると効果があるわけです。それが、見えない、または逆に違う方に行ってしまうかもしれないということがあるかもしれません。どこかのタイミングで検討できればと思います。

(委員) 高齢者の運転免許の返納になります、民間の福祉タクシーという名目で今活動、稼働されていると耳にすることがありますが、天草市でも高齢者の免許返納に伴う活動されている福祉タクシーなど事業者への支援について政策としてどこかで検討いただかないと、返納は進まないと思います。1歩でも2歩でも天草市が踏み込んだ施策として支援されると、優しさにつながっていくと思います。

(事務局) 確かに今後は免許返納が出てくると思います。その時には施策を進めるということになりますので、交通安全対策とかもそのあたりのところで書き込めればというふうに思います。検討したいと思います。

(副会長) 難しいかもしれませんが、やさしさと安心のまちと言った時に、地方創生、共生できるというのがすごく大事で、調整しないといけないと思いますが、もう一つあるのが、失敗が許されるっていうか、今挑戦するにも失敗が怖くて、失敗したら叩かれる。これでは、共生もしにくいし、優しくないと思います。そういう意味で、どこにいれたらと考えると地域福祉の充実で、生活困窮やその辺かなとは思いますが、失敗が許される、何かケアっていうか、何かそういう指標があるといいのではないかと思います。ノーアイデアですが、今ある制度ではなく、天草ならではのそういう失敗が許されるような相互補助みたいなものがあつた方がいいと思いました。ケアという言葉には三つ意味があると最近本を読んで、そのカタカナのケアっていう言葉に、その3つ意味があるっていうのがすごく大事で、その手当するところがあるのですが、ぱっと思ったのは自殺防止で、どこ

がやるかみたいものがありますが、そういうことが充実していると失敗しても大丈夫っていうか。ちょっと考えていただければと思います。

(委員) 優しいシステムの一つかもしれませんが、山梨の銀行がやっているまちづくりで、新しく出店するところに保険として万一事業が失敗してもということで、チャレンジショップが出すような保険をやっておられます。若い人も店を出すって結構チャレンジじゃないですか。そういうことも優しいなと感じあるかなと。

(会長) そういうことがあるから挑戦できると思いますので、もしかしたらこのような何かが必要なのかもしれないですね。

(委員) 福岡での取り組みを紹介しようかと思いますが、「はじめてばこ」になります。赤ちゃんが生まれると県が箱を送ります。その中には、赤ちゃん用のソックスだったり、初めて使う人向きだったり、あとはカードだったり、身長計だったり、赤ちゃん用品、ミルクとか、こういったものが詰め合わせで入っているそう。それが送られてきて、お母さんはそれを使いながら子育てをされています。予算のかかることですが、スポンサーも募って、例えばそういったものが届いて、その中に私としては相談窓口のパンフレットや困ったらこういうところに連絡するといよいよみたいなものを送ると知らないお母さんも助かり、地域からはすごく歓迎されて生まれてきた子供だなんていうのが、生まれてきた子が少し大きくなれば伝わると思います。最終的にはその箱をメモリアルボックスとして、初めて履いた靴下とかそういうものを入れておいて、また大きくなったら見せるみたいなそういう活用方法までうたわれているみたいです。何かこういったものがあると、見えない支援も大事ですけれども、目に残って形になっている目に見える支援として素敵なアイデアだなと思っています。

(委員) 保健福祉子育て支援施設の委員会に出席したのですが、そのときに一つキーワードにあったのが、いろいろなことに困っているかがそもそも分からない。相談に行っても窓口ではたらい回しにされ優しくない。そういうのもワンストップ化できないかという話でした。この人が生活に困っていますというのを一回聞いてもらい、あとはここですね、みたいなことができればと思います。

(委員) 私も子育て支援課の方が学校で授業をされる際に一緒に参加させてもらい、天草市の施策の説明を市と私達民間で行いました。子供たちへ伝えるため、かみ砕いて、天草ではこのような支援があるということを伝えながら思ったのが、子育てに取り組んでいるということは、子供たちにも伝えるべき内容ということです。今の当事者だけに伝えるのではなく、子供たちにも天草市がこういうこと頑張っているということを伝えるべきではないかと思いました。

○【資料4-6】生活環境・防犯防災部門説明

(委員) 今、企業も含め事業をされている方などにもどれだけ自分たちの仕事としてボランティア活動をされているところもあります。そういうところに目を向けてもらえるようなことをはっきりと打ち出して、少し特化されてされると、観光で来られる人たちなど見ていられる人たちも多くいらっしゃると思います。

(事務局) ボランティアとして取り組んでいただいている方については、自治会でボランティアとして協力いただいている団体数、各種団体等で実施されている団体数については集計しています。企業等のボランティアについては把握ができないとこ

るもありますので、このことも含めて、取り組みを推進していけるよう考えていきたいと思えます。

(委員) 2点あります。1点目は、新聞報道も最近ありましたが、消防団は考え直したほうがいいのではないかと思います。若い人がどんどん入らなくなっていて、消防団も昔と違い、どこまでしないといけないのかみたいな記事を読んだのですが、消防団員数を増えた方がいいと考えているのであれば、そういう社会を天草市は目指すなど、専門家が考えた方がいいと思えます。私の考えになりますが、年齢構成というか、ちゃんと年配の方は年配の方でその知恵を活かすことをやられて、健全でやらされる感がなく、給料も出し、消防団になりたい人を増やすような社会が、持続可能であり、消防団に対する考えを天草市が示したほうがいいと思えます。また、実際に地域の人が消防団をどうとらえているのかを調査して、それぞれの地域に応じて必要な消防団の考えなくてはいけないと思っています。2点目は、生活環境に関する苦情件数は減ったほうがいいのか、それとも増えたほうがいいのかと考えていたのですが、苦情が多いのは別に悪いことではなく、例えばユニクロはクレームは力になると考えており、私自身も文句は関心は高まりと思っています、一番打破しないといけないのは無関心だと思っています。単に行政にあれやれこれやれというのは確かにクレマーですが、そうではないものは歓迎すべきだと思っています。この苦情件数は増えたほうがいいのかどうか教えてください。

(事務局) 先に2点目の苦情件数について答えます。私たちの考えでは、改善し件数が減ることができたほうがいいと考えています。生活環境がよくなってきたら苦情がなくなってくるということで、改善ができてきている証明と考えております。次に、1点目の消防団については、消防は自助、共助、公助というこの三つのキーワードのうち消防団はその公助と共助の中間に位置する立場であると私たちは考えています。やはり消防団に関わる方というのは地域で団員を確保していただいて、その地域のこと、地域のことは自分たちで守ろうというようなところで、火災時に消火栓がどこにあるや、水源がどこにあるか地元の消防団だから火事が起きたときにすぐ対応できるというような役割として、また、災害があった時にもその地域でたくさんの人を動員できるってというようなところで、消防団があると独自の強み、そういう面もあると考えております。私たちとしては、消防団員数は、人口も減っていますができるだけ維持したいと考えております。全国的にも消防団員数が減少しているということも踏まえ、国から各自治体へ待遇の改善について助言があつています。国も、地方自治体もできるだけ消防団員を確保していくよう取り組んでまいります。

(委員) 消防団の話はよくわかりました。やはりおっしゃったように待遇を改善して若い人がやりたいと思えるようになってもらいたいと思えます。消防団の人は、どの世代でもリーダーで、ゆくゆくはその地域の担う人になっていきます。そういう若い人たちがそのリーダーシップを養っていくすごくいいシステムだと思います。給料を上げようという話でもないのですが、仕事になるといいと思えます。苦情件数としては、確かに指標としてはそうなのかもしれませんが、単に苦情だけではないとも思っています。もう少し整理されてもいいのかと思えます。

(会長) 指標に関しましては全体としての宿題として検討をお願いします。

(委員) 御所浦地域では、学校の先生方も地域の活動者ってということで、ともに地域を支えていくということで消防団にも入られています。あと、男性だけではないですよ。消防団員も共通の意識が必要だと思うので、男性女性の役割はあるかもしれませんが、変わらないといけない時代だという気がします。あまり男性にこだわるのではなく、実際にこのような決まりもないと思います。子どもの交通整理でも女性の方もやれていますし、やり方だと思います。そういったことで、これからの団員確保も難しくなりますので、そういったこともちょっと念頭に置きながら取り組まれるとどうかと思います。

(委員) 先日、亀川地区で水が濁って使わないでくださいという市からのお知らせメールがありました。亀川地域の人でも知らずに普通に水を使っていたということがあります。個別受信機での放送があったと思いますが、その人はご存じなかったみたいです。その人には市の公式 LINE を教えて、それで連絡を受け取ったほうが早いですと話しました。火事の情報や地震、水が使えないなどの情報を発信されていますよと、私が情報提供したところ。やさしさと安心を持つ人々の行動により安心安全を守るまちづくりと書かれて、その地域ぐるみの防災活動はとっても大事ということは分かるのですが、そこから漏れる人たちがいるということはどこかで知っておいてくださり、そしてどうすればいいかというのを一つの問題意識として持っていた方がいいと思いました。

(会長) 正直なところ、情報提供の場所を作るといわれても、なかなか市民に伝わらないと思ってしまいます。それに対して、市民から市民の方に伝えてもらうことも重要であって、本来はそこにあると思います。そういうことをもっと出していきましようってところでもあります。現状や課題に天草市はこのように意識してやっていくと一言一句丁寧に書こうとするとリアルな意見が消えやすいのかなってということもあります。あと、市民との協働と入っていますが、これはなにを指しているのかということについていつも考えてほしいと思います。市民との協働とはどういうことなのかを意識していただいて良いと思います。消防団は市民との協働としてこういう意味だとかどどん出してもいいと思います。ありがたい姿についての細かな説明はしないので、人それぞれでありがたい姿はこういう意味だとお持ちになってもらえるといいと思います。

(委員) 今、指摘いただいたような市民との協働がこれら重要になってくると感じております。あと、夜にイノシシとぶつかり車も壊れたと話も聞きますし、夕暮れ時や天気悪いときに、車でライトを点灯していると、ライトが点灯していると対向車からライトを点灯されます。ライトをつけない習慣が一般的になのかなと思いますが、私はなるべくライト早めにつけていますが、何か出てくるのも少し早く分かります。動物とも自然とも共存すると、それから、安全な交通環境を作るためにも、なんか積極的な早めのライト点灯を言ってもいいのかなと思います。一本、コンセンサス取れるような、判断があるとちょっとわかりやすいのかなあと思います。

(委員) 防災士も消防団員のように人数は固定しているのでしょうか。防災リーダーを何人というところが指標のデータにあるといいと思うのですが。

(事務局) 防災的な資格としては防災士という資格があって、日本防災士機構という NPO の法人による 2 日間のカリキュラムがあり、3 日目の試験を合格して、かつ救急講習を受けて取れる資格になります。その資格取得に対して経費がかかりますので、補助を行っております。40 人くらいの方に今補助を出しております。防災士の資格を取られた方の情報が私たちが把握できておらず、その人数を上げにくいというところがあり、防災士の人数が把握も含め検討します。

○【資料 4-7】都市基盤整備部門説明

(会長) 都市基盤整備部門については、3 年間の基本計画でどこまで有効なので、リアルな課題となりやすいところだと思います。今の状況として、今後ずっと考えていく課題としても全体的なコメントにもなると思います。この 3 年間において何を意識しなければいけないかということ、具体的な内容もですが、それぞれもっと見えた方がいいかなと思うところもあります。どうしてもこの部門は、何かその 3 年間で計画を作るってことに関してのこういった現状と課題分析等をしていただきたいところもあります。このアドバイスが具体的な、それが基本計画を踏まえての実施計画になるということ踏まえると、メリハリが出てくると思います。

(委員) この部門は社会インフラの要素が強くて、とても難しい課題ばかりだと感じています。この天草の広い面積でインフラを整えていかないといけない。しかし、人口はどんどん減っていく。課題としてはこの巡っている道路や水道の供給を、どう効率的に削減するかが必要ということが今後出てくると思っているながら見ていました。水道に関しては、老朽化への対策があり、その他道路や公園の管理維持でも、もっと老朽化を防ぐというような方法が記載されていたので、削減計画や適正化、効率化というようなところの取り組みは、今のところは必要ないというような認識で大丈夫でしょうか。

(事務局) 道路に関しては、国道県道はある程度整備をされていて、あとは横の繋がりになります。市道もある程度の整備はできていると感じてはおります。山に繋がる道で市道となっているところの維持管理、道路の清掃や草刈りなどが出てくるのですが、天草市としてはボランティア活動として、清掃活動を 2 回行ってもらっていますので、そういう面は助かっているところがあります。

(副会長) 総合計画の中で土木の役割はそんなにないのかなと思っています。ありがたい姿も理念のやさしさと安心のまちにしか入ってないのですが、実際この 5 つの方で見ると、例えば自然と共生するまちにもインフラがなかったらできないことだと思います。項目的にはこれしか上がっていないかもしれませんが、皆さんにはこの 5 つ理念全てやれるぐらいの視野を持って、逆に言うともっと広く視野を持って取り組んでいただきたいと思います。今しかできないこと、例えば熊本地震の後、結構強く情報発信もできるので、今インフラ強くしとかなないと、なかなか土木の事業で変えにくいところもありますので。むしろ変えることを今やれるっていうのが大事だと思います。それが備えになると思うので、ありがたい姿よりさらに大きいものをリアルなところで考えてほしい。道路やダムであるとか、飛行場であるとか、そういったことを見据えて 3 年間でやれることは少ないかもしれませんが。大きな土木と小さな土木、どちらも大事であって。たしかにネット

ワーク化することは大事だし、先程も移動の自由とか高校生の移動の話が出ましたが、まさに道路の話だと思うので、ぜひ広めに見るっていうのを部門の皆様にはお願いしたいと思います。

(委員) インフラの部分で、市民との協働による安心安全なまちづくりというのは、もしかしたら大きなものになるのではないかと感じています。今おっしゃったのも、その備える時期、それからメンテナンスすることも失われる部分もあると思います。例えば、ここが壊れそうだと崩れているとか。私が知らないだけかもしれませんが、市民がそういうメンテナンスの一助になるっていうことは、何か一つ今やってらっしゃるのでしょうか？ ちょっと水が出て滑りそうとかですね、あの崖が見ていてやっぱり危ないなど、それから上下水道も含めて、生活者としてわかっているような一般市民の方から情報発信する時代の中で、こういう災害時も含め、インフラの部分でも協働できることが今あると思います。

(委員) 普通に生活していて、非常にゆるい天草なので。やっぱり天草市民も協力的っていう部分があればいいのですが。

(事務局) 現在、天草市の中では市道清掃のボランティア支援事業を行っております。その中では市民の皆様が自分たちの周りの市道を清掃するという取り組みを行っていただいております。道路の損傷や破損については、そのボランティア事業で発見された市民の方が、市に通報いただくようなシステムになっております。

(委員) 安全に暮らすためにもやってもらっただけではなく、気づいたところを簡単に写真を撮って送るだけでも、何か身近に感じたことをすぐに連絡できるようになるとなんとなくこのインフラや安全においても市民が参画していく、一緒にやる余地もあっていいのかなと思いました。

(副会長) 防災士は日頃から防災のこと考えてインフラのことよく見ていられるので、支援場所の指摘や、防災の話をしたときに、そのフィードバックを行政にも提供してもらおうという事が、今求められる防災、安心、優しさ、やさしさと安心のまちとなるので、皆さんもそれぞれの得意分野からそのインフラを扱うってことと、様々なところにつながるかも繋がるかもしれないし、ちょっとお小遣い稼ぎになるかもしれません。それで行政の仕事を減らせることもあるかもしれないし、自助、公助、共助が分断されたものではなくてちょっとずつ重なっている方がいいと思います。市民がやるのかみたいなことをたくさん増やされていましてと思います。ここは行政、ここから市民と分けないで、ぼやっとするのもコツかもしれません。これぜひやっていただきたい。

(委員) コミュニティFMが地域にあるのは非常にありがたいと思います。これからはですが防災無線の役割はこれからも大きく広がっていくと思います。生活・環境でのいろんな具体的な指標を検討されると思うのですが、難聴対策の達成可能が4年から5年かもわかりませんが、指標もあわせて検討してもらえれば、大変心強いと思います。いつ地震がくるかわからないし、天災はわかりませんので。

(事務局) コミュニティFM放送は、平成29年度に開設しましたが、地形の関係で入りにくいところがございます。令和元年度、2年度で解消に向けた整備を行いました。さらにいろいろとお話を伺っていますので、この対策のため、中継塔を立てるなど総務省と協議を行いながら、今後進めていきたいと考えておりま

す。今年度も2、3箇所を予定しているところです。

○【資料4－8】総務・企画部門説明

(委員) 安定した財政運営での税収が減収と結局赤字になるというのが見えていて、そのための財源の確保として重点的に力を入れていくということはわかりますが、魅力ある返礼品の充実の中身がどんなものになるのでしょうか。飛騨市だったと思いますが、返礼品の充実ではなく、見せ方を変えたいらしいです。すると元々の寄付額が2,000万円ぐらいしかなかったのが地元出身の方がホームページを作られ、次の年には10億円となったそうです。返礼品の品目は変わっていません。返礼品の充実を図ることも一つですが、その見せ方で魅力ある商品が結局は響いてなかったり、引っかかっていなかったりということです。充実を図ることも一つですが、ぜひ、見せ方やあり方についても考慮していただければと思います。

(事務局) 早速調べます。

(委員) 今の話、ミスマッチを解消して情報を変えただけで2,000万円が10億円になったならば、非常に高い効果だと思います。まさに工夫が生み出した富かなと、ものすごくいいやり方があると思いました。一方で、必ず10割打者と毎回ヒットを出せるバッターはいません。絶対失敗があり、失敗するところから高い経営意識を持ったその上のやり方につながっていくと思います。つまり、リスクをどう顕在化していくのか。行政の中でこれだけ皆さんも内容を盛り込んでいただいています。これが減点方式であれば、何もやらない方がもしかしたら出世するかもしれませんが、何かやらないと0から加点していく。その心配もあるし、何かやっても加点していくみたいなことを本当に検討いただければと思います。攻撃は最大の防御になってくると思いました。「歩み続ける行政の」これは、運営者、あくまで経営と書かれています。下はあらゆる社会変化に対応した行政の運営、経営と運営やはり使い分けられると思います。特に健全な財政の運営、健全な財政の経営とすると守りが入らないといけない部分だと思います。このバランスがすごく難しいと思いますが、ここで経営の工夫をするととなると、失敗してでもどんどん新しいものをプラスって作っていく。失敗から成功は生まれると思うので、そういうことを行政の方自らが述べられるものもすごく画期的なことではないかなと思いました。

(副会長) 今回の5つの理念を見て一番良くなったのが「行政経営」だと思います。私がぜひ入れてほしい言葉がやりがいです。職場環境の整備のところは職員皆さんのやりがいだと思っています。公務員になって良かった、天草市役所に勤めてよかったなといえるように。地方行って、そこの公務員の方すごく生き生きしていると、良いまちと思うことが多いです。私の師匠が言われていましたが、こういう時代だからこそ、そういう時に働けるように公務員は社会を変える力がある。民間で社会を支えるのは難しい。すごい開発やすごく儲けると社会が変わるかもしれませんが、公務員はきちんと法律に則って仕事をしていたら社会を変えることができるからおっしゃっていました。市民はそういう公務員のために税金を払っているからというので納得します。公務員の方は少しでも間違えると叩かれることがあります。天草はやさしいというのをいうのであれば、公務員にも優しい、優しくも厳しい、そのように見守られながら働き、働ける職場になってほしいと

思います。何か固い言葉で言うと公務員的資質の向上みたいなものになるかもしれませんが、倫理だと何か守らないといけないと思うので、やりがいや天草市役所で働いている人が一番天草のこと考えていますということを堂々と言えるような職場にしてほしい。ぜひそこを工夫していただきたいと思いました。

(事務局) やりがいの件ですが、基本的には職場での人事評価制度の中で個人的な目標を立てますが、その中で自分の能力より少し高い目標を立てさせ、それに対して、管理職は指導し支援する。面談を通じて育てるというような力で、職員が仕事を達成でき、その達成感を作っていくことでやりがいに繋がると考えております。今年も人事評価制度を少し見直し、進めていきたいと考えております。

(会長) この目指すべき姿として、大切にしたいことです。ここでやりがいがあればうまくいくと思いますから、そこはぜひしっかり考えていただきたい。働くことと仕事のことをきちんと自分のあり方と影響し合い、お互いにいい状況にあると、そこでどんどん挑戦したい、いきいきできると思います。本来は公共財政の意識がありますが、それに対して維持しにくい状況もあり、制度が決まっていることもたくさんあります。しかし、逆に意識的に変えていかないといけない、変えた方がいいというところはそこに力を入れていく必要があると思います。

(委員) 話を聞いて思ったのは、特に意識改革や女性職員の活躍の推進です。この辺りが全てやりがいに繋がるような、各年齢に応じたて、職業成長、つまり公務員も20代、30代、40代と与えられ役割も違い、経験からも変わってくると思います。職員育成をプランとして、20代はこういったことやりたい、30代ではこうとして、ぜひ天草市に勤める方々が、ここに勤めていてよかったと思い、やりがいを感じて退職してほしいと思います。それが、天草市への貢献度だと思います。職能成長という四つの文字を検討して入れていただければと思います。職員の方が結果として能力が成長できればと思いますので。育成して受け取って頑張っ、それが自分の能力として認識できるように、ぜひ研修制度のあり方も含めてご検討ください。

(委員) 挑み続ける行政っていう中で、施策計画で市民参画が最初にあるのですが、市民1人に対してどう動くというのがないのは、市民の方が見たときに、あの内部のことしか書いてなくてどうかと思いました。

(事務局) 私たちも、当初はそこは分けないということで、理念は4つとしておりました。これまでの審議の中で、この挑み続ける行政経営の部分につきましては、私達内部が次にこうやって訴えていきます、参画をしてもらう体制を整えていきますという、内部の取り組みがこういうことになりますと表したのになります。これまでの審議の中での意見を踏まえ、行政もこうやってしっかりやっていくという姿勢を見せることによって、他の4つの理念においてそれぞれ市民と一緒に取り組んでいくようになります、市民の方々も参画してもらうと示したものとということでご理解いただければと思います。

(会長) とてもいい方向に向かっていると思います。こういうことをやった方がいい。これもかっこいいですし、そのことを現実的にこの基本計画の中身を見ていくと、やっぱりせめぎ合いがあると思います。やることはこういうこと。でも目指したいのはこうだと。この隙間が結構あるのではないかという気もしています。審議

会の立場としてはありがたい姿、未来から考えてこうだと思いますけれども、実務側では今も取り組んでいて、ここまでしか編成できないという時はせめぎ合うしかないです。とはいえ、総合計画の基本構想で目指すということが大切で、例えば、あらゆる社会変化に対応しあらゆる社会問題に対応するというのとは何かとなると、それは高い経営意識を持つとどうなると、そのようなことはまだ文書として表現されていただけてないので、理念と同じように書いていき、それを受けて基本計画としてはこういうことで、だから財政のことを考えていく、経営意識としてこのように工夫して指しているなどと。繋がりに稼げることを考えているからこそ、経営意識はすごくいいとか、もう少し丁寧に考えていくと、この基本計画の話がぐっと見えてくると思っています。市民と一緒に取り組むことは、あらゆる社会変化に対応することが必須条件になると思います。まずは行政職員が頑張っただけであれば、市民の皆さんも知恵と工夫と出していただければと思います。どんどんと具体的に前にしていくことが必要だと思います。そういったように、それぞれの要素をもう一段、他の専門部会でも話しましたが、どういう意味があつてつながっていかないと現実的な実施計画の方に引っ張られやすくなると思います。

(委員) まず、理念が「挑み続ける行政経営」というのは、とても素敵だと思います。気になったのは、まず、市民の視点を大事にしていてその繋がりが大きなテーマだと思いますが、行政運営での市民参画の推進で挙げられている4つ内容は、今までも同じような施策をされてきたものではないかと思っていて、今から4年先を見越した時に、市民を巻き込むっていうところでもう少しチャレンジをしてもいいような何か違う取り組みをするなという気持ちが出たら素敵だなと思いました。もう1点、組織の効率化のところでの効果的な組織体制の確立を図るところで、計画的な人員管理に努めるというところですが、成果指標が職員数となっていますが、判断基準として、市民に対する職員数の配置の割合が税金に対する人件費の割合などの見え方が効率化といえるかもしれません。

(事務局) 1点目の行政運営の市民参画のところですが、今までと何が変わっているのかの表現になってくると思います。新たな取り組みも行いますので検討したいと思います。2点目の成果指標につきましても悩んでいるところであり、削減するばかりだけではなく、採用の方も難しくなっているという状況もあることからこちらでも検討したいと思います。

(委員) 行政運営の市民参加の推進というところは大事なことだと思いますが、今現在行っている内容をより充実したものにしていくということもとても大事なかと考えています。課題として多くの市民に行政運営に参画できる機会の提供が必要と記載されていて、施策計画として市民の誰もが気軽に行政運営ができる仕組みと行政の情報をわかりやすく伝える方法、情報発信などが記載されていて、本当に税金が少なくなっていることをこの会議出るたびにお聞きして、とてもモヤモヤします。「みつばちラジオ」は公設民営だと思います。市役所からのお知らせや市政だより天草の内容など毎月お知らせをしています。その公設民営としての働きがもう少しできるのではないかと思います。先ほどの防災やインフラにも該当してくると思いますが、これから梅雨になって大雨の時期になると、市民

の皆さんに防災に対して準備してほしいとお知らせしますが、する人はするし、しない人はしません。市民の皆さんに、市が企画されているたくさんの講座があったりするのに、それをきちんとお知らせできてない状況もあります。少しずつですけど、聞いている人も増えているので、もう少し地域の情報を細やかに伝え、少しずつできているからこそ、続いて行って欲しいと思います。あと、紹介の仕方でも市民の皆さんに興味を持っていただける部分もあると思っていますので、今の状態だとそもそも伝えることができていないと思うところがあります。変革できないという部分もあるので、公設民営だからこそ市の方からチェックし、もっと市の情報を取り上げて欲しいなと感じました。

(会長) 公設民営というのは公設であり民間がやっているけども公的なことをやるために作っているわけですから、考え方は行政企業だと思います。全部ではありませんが、一緒になって行政のことを行っている組織でもあるわけです。単なる民間の組織とは全然違って、少し違うかもしれませんが観光協会もそのようなところになるかもしれません。組織の役割はもちろんありますが、いろいろな組織が行政経営を担っているという感覚で考えるとそこが少し見えにくいかもしれません。

(事務局) 確かに私達も「みつばちラジオ」の活用が十分できてないと思っています。市政コーナーにしても放送を行っていますが、それ以外のところについては経費の問題もあり、なかなか踏み込めてないところもあります。市の取り組みの中で、市民皆さんにも取り組んでいただきたいということは常に伝えていくってことが一つの手段だと思っています。はっきりいうと行政は情報を伝えることが下手です。水道の話がありましたが、個別受信機の設置については100%を目指し取り付けをお願いしているところですが、誰でも設置できるということが知られておらず、そのため情報が届いてないってところもあります。設置したことで波及していくような伝え方もあるかもしれません。また、市民の皆さんが行政の担い手となっていただけるよう取り組みも仕掛けていければと思います。

(会長) 情報を皆さんで共有することが基本ですし、それがあただけで変わってくるわけですが、難しさもあります。この領域の総務・企画専門部会全体としての考えともなると思います。挑み続ける行政経営の中でいかに情報のことを取り上げていくのか大きなテーマだと思います。コミュニティFMに関しても、コミュニケーションが弱いのもかもしれません。結局は市民の皆さんが情報を知らないからうまくいきませんということがこの審議会で上がっていると思います。ということは、広報戦略に問題があるのもかもしれません。今、情報をどう扱っているのが重要な要素があって、全般的な課題かもしれません。今は、インターネットを使った方法など情報発信の方法はたくさんあります。ご検討いただければと思います。今後、皆さんで指標も踏まえ、影響し合いながら関わっていくそういったことにも注視いただきながら、全般的に皆さんからご意見をお願いいたします。

以上